

戦国駿府の古城めぐり

江尻城 えじり

静岡市清水区江尻町

駿河支配に乗り出した武田信玄は、旧今川水軍を接収して味方につけるとともに、伊勢・志摩の水軍の将・小浜民部左衛門尉景隆、向井伊賀守正重らを迎えた。そして駿河・遠江支配の中心的拠点を、駿府ではなく、江尻城に置いた。

江尻城は、巴川が蛇行する河岸微高地をうまく利用しており、駿河湾に近く、海を押さえるための城であった。1575年(天正3)に城代が重臣の穴山信君(出家して梅雪)に代わると、本丸・二の丸・三の丸という大規模な城に改造し、徳川軍の来襲に備えた。武田氏滅亡の直前、信長に降伏。1600年(慶長5)に廃城となった。

巴川河口部に突出した扇形の埋立地に築いた水軍の城。清水袋城は、美濃輪町という町名に、縄張名人・馬場美濃守信房のなごりが見られる。



江尻城本丸跡の静岡市立清水江尻小学校 (撮影:水野茂)

久能城 くのう

静岡市駿河区根古屋

久能山には平安時代以来の古刹・補陀落山久能寺があったが、武田信玄は久能山の要害性に目をつけ、久能寺を有度山東麓の村松に強制移転させ、寺地の坊院などを城として再利用した。

久能城を築いたねらいは、駿河湾の掌握にあり、1569年(永祿12)に築城が開始された。久能城の一番高いところには現在、愛宕神社の小さな建物が建っているが、そこが詰の曲輪、おそらく物見曲輪があったところ。駿河湾全体が一望のもとに見渡せる。久能城の麓、海に面したところには船溜まりがあったと思われる。

武田氏滅亡後は駿府城の支城として徳川氏や豊臣氏の家臣が在番。家康は亡くなる直前、「遺骸は久能山に埋葬すること」を遺命として家臣に託し、久能山東照宮が造営された。



久能城跡 (撮影:水野茂)

用宗城 もちむね

静岡市駿河区用宗城山町

今川氏の時代には、駿府を守る支城の一つに位置付けられていたが、武田氏の駿河侵攻によって、新たな役割が負わされた。

古い絵図をみると、駿河湾の一部が入江となつて用宗城のすぐ麓まできており、現在のJR用宗駅のあたりが船溜まりになっていたことがうかがわれる。

武田水軍の拠点の城として向井伊賀守正重が守っていたが、1579年(天正7)に徳川軍の攻撃で落城。武田勝頼は城を奪回したが、1582年(天正10)の徳川軍の攻撃で城主・朝比奈駿河守信置は城を開き、久能城へ退いた。

武田氏滅亡後、徳川家康は城を手に入れ持船と称し、この武田水軍は徳川水軍に継承され、同城をまかされていた向井氏は、江戸時代に入っても幕府の船手となつて、優遇された。



用宗城跡 (撮影:水野茂)

武田信玄 たけだ しんげん

1521~1573



甲斐の戦国大名武田信虎の長男。父を駿河に追放し、家督を継ぐ。

分国法「甲州法度之次第」を制定。土木技術者を積極的に登用・育成し、たびたび洪水を引きおこしていた釜無川に信玄堤を築いて治水に成果を上げ、金山を開発して産出した金を軍資金とするなど、領国経営に優れた手腕を発揮。信濃を攻略し、川中島で上杉謙信と激突。さらに西上野、寿桂尼没後の駿河を版図に組み込む。最後に京都進出をくわだて、徳川家康を三方ヶ原で破るが、陣中で病没した。

徳川家康 とくがわ いえやす

1542~1616



8歳~19歳を駿府で今川氏の人質ではなく重臣として育てられ、雪

斎に帝王学を学ぶ。桶狭間の戦いで義元が討たれると、織田信長と同盟を結び、三河・遠江・駿河を治める。信長没後は甲斐・信濃を平定。豊臣秀吉が北条氏を滅ぼすと、関東に移封される。この過程で、今川、武田、北条の遺臣を大量に登用し、その先進的領国経営を幕藩体制的支配に活かした。秀吉没後、関ヶ原の戦いを制して江戸幕府を開くと、駿府城に移り、大坂の陣で豊臣氏を滅ぼし、徳川の覇権を確立した。